

# AROにおけるCRCキャリアパスモデルの検討

## ARO協議会 CRC専門家連絡会

菊武恵子、佐々木由紀、村元綾子、草場美津江、藤原紀子、渡部歌織、加藤勝義、安藤幸子  
豊岡慎子、老本名津子、砂山陽子、丸山秩弘、藤田佳奈子、興津美由紀、西田朋子、佐藤典宏

### 背景

平成25年、日本発の革新的医療技術の創出を行うためにARO（Academic Research Organization）協議会が設立され、CRC専門家連絡会を設置している。アカデミアにおけるCRC業務は、研究者が企画する自主臨床試験や医師主導治験に広がり、各種関連法規・指針の知識、試験実施におけるリスクマネジメントや応用力など、より高度な知識と技術の習得が求められている。連絡会ではCRCの業務・専門性・教育について議論を重ねてきた。その中で、アカデミアに求められるCRC像について明文化した上で、目指すべき方向性を定め、アカデミアのCRC（以下、ARO-CRC）を育成する教育ツールを開発することが急務であると考へた。

### 目的

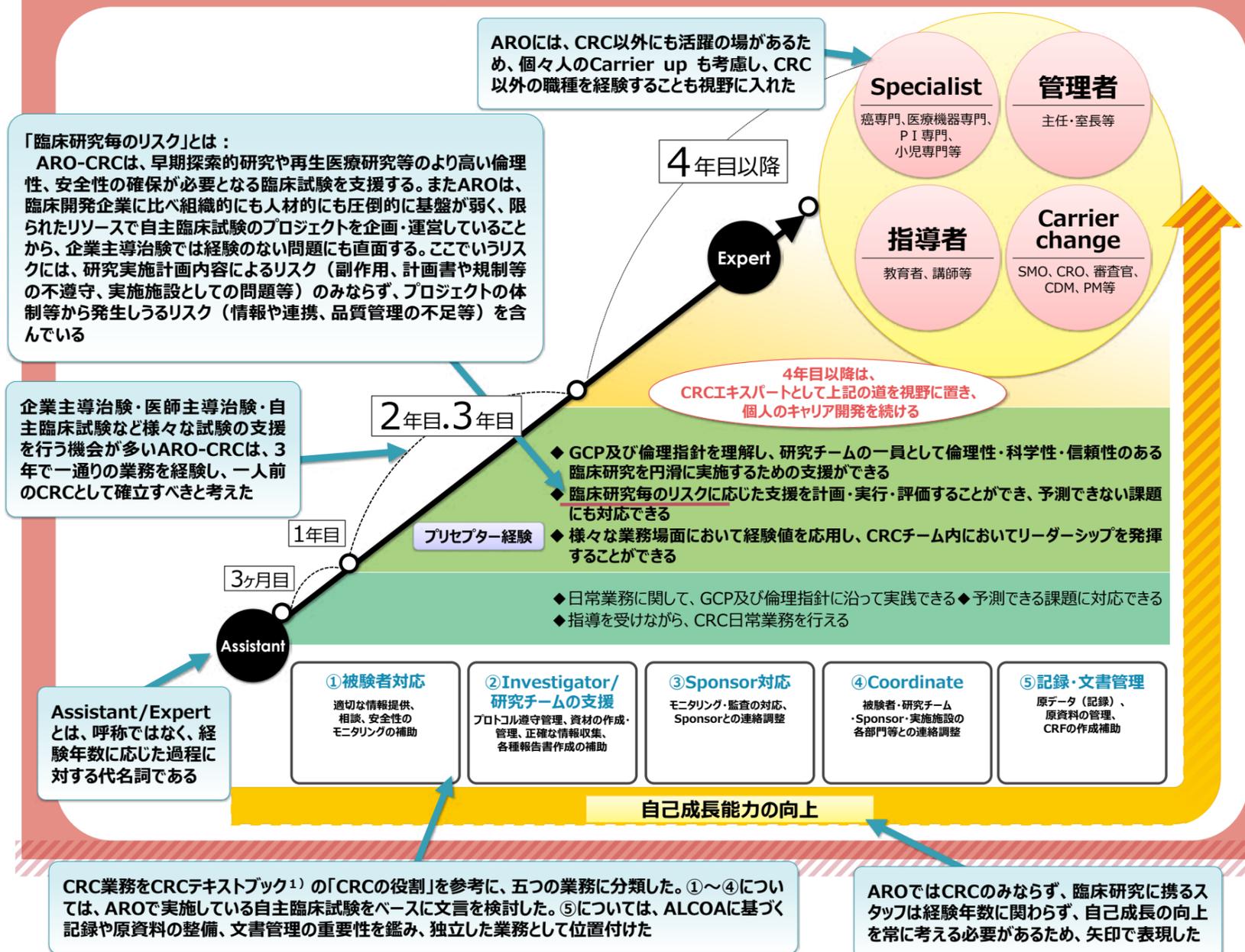
AROに求められるCRC像を把握するため、キャリアパスモデルを作成する。

### 方法

キャリアパスとは、個人がどのように経験を積んでいくかという順序や計画を指すものであり、管理者と個人が目標を共有できるツールでもあるため、将来目指すべき姿を明確に捉えやすい。今回、AROに求められているCRC像がどのようなものなのかイメージ化できるように、CRC連絡会メンバーにてキャリアパスモデルを検討をした。

### 結果

## AROにおけるCRCキャリアパスモデル



### 考察

各施設によって求めるレベルや経過年数などに多少の見解の違いはあったが、目指すべきCRC像については、すべての施設において見解が一致した。また、イメージを図示したことで、それぞれが頭の中で描いていたCRC像が共通の認識として出来上がった。CRCという職種が誕生し、もうすぐ20年が経過しようとしている。このようなツールを我々アカデミアから発信することで、CRCという職種の認知度を向上させ、また、職種としても更なる発展ができるよう期待したいと考えている。

### まとめ

今後は、このキャリアパスモデルを念頭におき、各施設においてCRC育成に使用していく。また、本連絡会ではキャリアパスモデルに沿ったCRC像を具体化し、ARO-CRCを育成するための教育ツールを開発する予定である。